

令和2年12月7日
12月10日一部修正

「若者よ、宴会、カラオケで人生を棒に振るな！」

学長 荒川哲男

気持ちはよく分かる。私が学生の時だったら、軽い気持ちでやっていただろう。しかし、その軽い気持ちがあだとなり、その先にあるのは、**自分（私）のせいで親を亡くし、息苦しくて普通に歩くこともできない後遺症に悩み続ける暗い人生、、、**かも知れない。ゾッとするよね。

君も決して例外ではない。「自分ごと」として考えよう。宴会、カラオケ、麻雀、今じゃないでしょ！！！！



- ・ COVID-19（新型コロナウイルス感染症）による**若者（18-34歳）の後遺症は26%¹！**
持続する肺炎、心筋炎、血管炎→呼吸困難、だるさ。若年性の心筋梗塞、脳梗塞のリスクが高まる
- ・ **家族内感染急増**→無症状の若者がウイルスを持ち帰ることが主因と考えられている
- ・ **重症患者の急増**→高齢者の感染増加による
- ・ **医療崩壊寸前**→崩壊が起ってしまうと、COVID-19だけでなく、すべての病気の患者が救えなくなり、**死亡者数が急増する**

実に恐ろしい。目前に迫っている危機を救うのは、**全員が「自分ごと」として行動**することしかない。**2週間でいい。人との濃厚な接触を避けよう！**

【文献】

1. 新型コロナウイルス感染症診療の手引き第3版. 厚生労働省「診療の手引き検討委員会」（2020年9月4日発刊）

★なお、吉村知事は、大阪府がレッドゾーン（赤信号）に入ったとし、今月3日に「医療非常事態宣言」を出し、府民に対し15日まで不要不急の外出自粛を要請されています。

学長メッセージ第14報の補足と修正について

私が発したメッセージ第14報で、「課外活動は『不要不急』に該当」とした点について、複数の学生から「不適切では」との意見をいただき、誤解を招きかねない表現であったことに気づきました。

たしかに「不要」は言葉としては「要らない」という意味にもなり、また「不急」が「後でもよい」という意味にもなるので、その言葉によってこれまで君たちが学生時代の貴重な時間を費やし、本当に大切にしてきた課外活動への想いを傷つけ、悲しい思いをさせてしまった可能性があることについて申し訳なく思っています。

しかし、これは全く私が伝えなかったことではありません。

現在の新型コロナ危機のように、自分や他人の命がかかっているときには「(命の) 危険を冒してでもしなければならぬこと」、例えば病院受診や生活必需品の調達など（そちらもまた命にかかわる）以外の事柄を「不要不急」と表現することが多いので、その表現を使ってしまうました。

私は課外活動を、「要らない」とか「後でもよい」と思ったことは一度もありません。

入学式でも課外活動の重要性を必ず挨拶に含めていますし、本学学生の活発な活動を誇りにも思い、心から応援しています。

君たちがかけがえのない大学生活の中で、仲間とともに自ら成長する大切な場であり、それは大学時代の今しかないはずだ、ということも十分に承知しています。

私も市大での学生時代に部活から多くの経験をし、今でもそれが人生の糧となって大いに役立っています。

それでもなお、本当にそれでもなお、君たち自身、君たちの友人、君たちの家族、そして君たちと何らかの形で接触することになる社会のすべての人々の「命と健康」を守ると考えるとき、大学として、学長として、君たちに対して期間限定とはいえ「(対面を伴う) 課外活動の停止」を決断せざるをえませんでした。

すべての人の命と健康を意識しながらも、今はそれが非常に大きな制約条件ではあるけれど、君たちの学生生活が少しでも期待したものに近づけるよう、大学としてできることのすべてを費やして君たちを支援・応援しています。

もちろん、学生生活、勉強、友人、就職、感染などにたいする、さまざまな不安があると思います。大阪市立大学では皆さんに寄り添って相談に乗りますので、ためらうことなく別記の窓口に相談してみてください。

令和2年12月10日

荒川哲男

学生相談窓口について <https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ja/ocu/s7ummo/to70z>